

★本記事の読み上げ動画を作成しました！

忙しく記事を読む時間がない方でも、耳を傾けていただくだけで内容を把握することができるよう、本記事を読み上げた動画を作成しました。移動時間やスキマ時間などにぜひご利用ください！
動画はこちら➡<https://youtu.be/7kfwsGTc11Y>



過去の
動画は
こちら



連載

★学校運動部活動の地域連携・地域クラブ活動への移行に取り組むクラブ★

NPO法人ゆうスポーツクラブ 山口県岩国市

学校運動部活動をめぐっては、少子化による生徒数の減少、それに伴う教員数の減少、専門的指導力を持つ教員の不足等により、生徒のニーズに応じた部活動自体が成り立たなくなる現状があります。

文部科学省では、令和5(2023)年から令和7(2025)年までを「改革推進期間」と位置づけ、休日の部活動について、合同部活動や部活動指導員の配置により地域と連携することや、学校外の多様な地域団体が主体となる地域クラブ活動へ移行することについて、地域の実情等に応じて可能な限り早期の実現をめざすよう各自治体に求めており、総合型クラブにおいても学校運動部活動との連携が期待されています。

そこで今回は、学校運動部活動と連携するクラブの取り組みを紹介します。

1

クラブ概要

ゆうスポーツクラブを設立することになったきっかけは約20数年前にさかのぼります。平成14(2002)年度から実施される完全学校週5日制の対応策を検討するため、平成11(1999)年に学校関係者、教育委員会事務局で「学校週5日制対応準備委員会」が設立されました。その席で中学校運動部活動や地域教育のあり方などについて協議を行いました。平成14(2002)年度から完全週5日制になり、毎週土曜日が休みとなります。週5日制になる以前は活動はありませんでした。土曜日午前中の小・中学生の活動はなかったので、週5日制対応準備委員会の委員から、その時間の子どもたちの受け皿となるのは、スポーツ少年団なのか、中学校部活動なのか、それ以外なのかという、居場所としてのスポーツの受け皿の調整もしくは整備が必要ではないかとの見解が示されました。それを受け、スポーツ面での対応策を町内の体育指導委員(当時)、スポーツ少年団関係者、学校関係者、学識経験者、教育委員会事務局などで検討することとなりました。まず、町内のスポーツ活動について調査・把握・分析を行いました。

由宇町の地域スポーツの過去に触れると、昭和40(1965)年代後半に設立された由宇町体育協会は地域住民のスポーツ振興や活動年齢も比較的若く、スポーツ少年団の活動支援も行っていました。そのようなこともあり、スポーツ少年団は小学生加入率66%(山口県内1位)で、多くの種目が活発に行われていました。中学校においても部活動数も多く、顧問教員と地域指導者との連携も多くありました。しかし、指導者の高齢化や若い指導者への移行がうまくいかず、スポーツクラ

クラブ設立を検討した平成12(2000)年当時は、体育協会の活動も弱体化し、体育協会設立の目的の活動ができていない状況が起きていました。また、中学校部活動だけでなく、スポーツ少年団、一般の活動、高齢者の活動、各層・各段階で途切れるスポーツシステム、例えば、スポーツ少年団は児童が小学校を卒業すると卒団していき、中学校の部活動へと移行するというような課題などがあることがわかりました。そこで、将来を見据えた「総合型地域スポーツクラブ」の設立・育成をめざすこととなりました。

ゆうスポーツクラブの理念は、次の通りです。

生まれてから死ぬまで、多様な形でスポーツに関わり(する、みる、ささえる)が持てる仕組みづくりと「生涯スポーツの循環システムの構築」です。

理念実現のために、以下の4項目が実現できるクラブをめざしています。

- ①スポーツ活動を通じた青少年の健全育成と地域の活性化
- ②各種スポーツ活動を自由に体験できる環境づくり
- ③各世代を通した一貫性のあるスポーツ活動の振興
- ④人材育成と施設の有効活用

コロナ禍により、1,200名の会員が900名に減少し、コロナ禍が明けた令和6(2024)年9月現在も920名と会員がコロナ禍前に戻らない状態が続いています。スポーツ活動の現状は、小学生(スポーツ少年団11団体)・中学生(中学校運動部・クラブ内運動部5部)・一般(一般種目部11種目)の定期活動、キッズ・高齢者などのスポーツ教室(16教室)、イベント、施設のオープン化などを積極的に実施し、会員増・指定管理施設の利用者増に努めています。事務局体制は、専従職員3名、パート職員5名と理事、ボランティアで地域住民の健康・福祉の増進に向けた活動を実施しています。

2

クラブづくりの始まりは 地域スポーツの現状調査から

創設前の体育指導委員が行った調査で判明したこと

クラブづくりの始まりは、平成12(2000)年に行った由宇町体育指導委員(現スポーツ推進委員)が行った町内のスポーツ現状の調査・把握・分析によるものです。

- ◎一般の活動は、メンバーの固定化・補助金依存の強い団体が増えていました。
- ◎子どもたちの活動は、少子化・指導者の高齢化・指導者の減少・勝利至上主義・スポーツをやる子とやらない子の二極化が進んでいました。
- ◎中学校運動部の現状は、生徒数の減少・指導者の高齢化・指導者の減少・生徒が希望する種目がない・地域との連携がないなど多くの課題がありました。
- ◎スポーツ振興の現状は、行政主導のイベント中心・予算消費型で比較的健康づくりに関心のある一部の住民が受益してきたと考えられます。生涯スポーツの推進、スポーツはみんなのものという考え方からみると、このための積極策は極めて少なかったといえます。

この調査結果を受け、地域は次のように考え活動を開始しました。

地域にある多くの課題に対し、今のままでは現在の活動を10年後20年後に残せない。今活動

している者の役目として将来もこの地域で今と同じようにスポーツ活動ができる環境の必要性を感じ、地域スポーツの仕組みを変える、中学校の運動部・スポーツ少年団・地区体育協会が一つになり、生まれてから死ぬまでのスポーツとの関わりをめざす総合型地域スポーツクラブ設立・育成を決定しました。

クラブが行った具体的な取り組み

クラブが最初に行ったことは、中学校とクラブが連携するために、地域にあった各層・各段階で途切れるシステムの垣根を取り払うことでした。地域のスポーツ活動を一つの仕組みで実施する場合、中学校は特別ではなく中学生も地域と一緒に活動することが大切と感じ、当時の校長、教頭、部活動主任、設立準備委員会、教育委員会とで何度も話し合い中学校運動部のクラブ参加が決定し、その後、中学校の保護者会に設立準備委員会が説明を行い、保護者から了承をいただきました。最終的に中学校は運動部員、教員全員のクラブ加入、クラブは部活動支援、生徒の地域参加などで協働・連携することとしました。また、この協働・連携が前に進むよう教頭先生が理事として理事会に参加し、中学校の意見をいただくことにしました。クラブ設立から20年、地域スポーツを取り巻く環境、特に中学生のスポーツ活動を取り巻く環境は大きく変わり中学生の思いとは少し違う方向に進んでいると思います。現在も月1度の理事会に教頭先生も毎回参加し、多くの課題について話し合い方向性を決定しています。

指導者、財源、活動場所の確保方法と連携している関係団体

指導者については、スポーツ少年団・中学校運動部・地区体育協会などが一つになりできたクラブであることから、当地区ではクラブ設立前と同様の指導者で活動ができています。財源についても、会費、講座収入、指定管理受託など知恵を出しながら賄っています。活動場所は、指定管理施設・学校施設などを活用し、クラブ設立前と同様に活動できています。また、クラブ単独では活動も限られてくるので、地域内の多くの団体とも協働し、保健センターとの健康づくり事業、シルバークラブ(老人クラブ)や婦人会とのスポーツイベントなどを実施しています。

取り組みを進めてきたことを振り返って

取り組みを進めてきたなかでよかったことは、クラブにはボランティアの方が多くいることです。当クラブのボランティアは、個人ボランティア(一般、中学生)と連携する他団体(保健センター、シニアクラブ、婦人会、広島カーブ由宇協力会など)があります。ボランティアにとってクラブの活動に参加することのよさは、多くの人と知り合い、クラブを通じてのコミュニティが始まり、活動の幅も広がっていくことです。一方、クラブにとって多くのボランティアの存在は、イベント等を安全に実施するための力であり、少ない人数で活動しているクラブ事務局、理事、指導者にとっては大きな助けとなります。そして、他団体とともに協働・連携することで、クラブの活動の幅も徐々に広がっていくのです。つまり、総合型地域スポーツクラブにはスポーツを通じた人づくり、まちづくりも期待されていますが、そのためには多くの人が必要だということです。

また、苦勞したことはクラブの協力者を得るために、当初は持ちつ持たれつの考えで進めましたが、クラブが協力するばかりとなってしまう、うまくいかなかったことです。そこから共存共栄の関係づくりが重要と考え構築を進めた結果、現在は本来のお互いさま関係ができています。そのような関係づくりをするため、地域に根付いた活動に心掛けています。

3 多くの課題に取り組み解消への道が開ける

(1) スポーツ少年団、中学校運動部、地区体育協会が一つになったスポーツクラブを設立したことにより、学校運動部にあった多くの課題(生徒数の減少・生徒数減少による教員の減少、種目指導できる教員がない・生徒が希望する種目がない・地域との連携がない……など)を少しでも解消するため次のことを実施しました。活動面では、合同練習・交流試合(スポーツ少年団×中学生、中学生×一般)、大会の審判応援、中学校運動部への指導者派遣(学校の顧問教員が中心で派遣コーチは補佐をする)が始まり、中学生の活動・指導に大きく寄与しています。部活動経営面では、クラブ設立当時の由宇中学校PTA会長から、生徒数の減少や部活動の任意加入制により、学校が生徒から徴収する部活動費が少なくなり、生徒たちには頑張って上位大会に出場してほしいが、部活動費がないので勝ってほしいという思いはあるけれど、勝ったら困るといった話を聞きました。そこでクラブは中学校運動部に対して活動支援金を20万円(当時)出すこととし、資金捻出のため、クラブ全体の活動支援金の見直し(一般活動の活動支援金の減額)を行いました。また、地域イベントへの中学生の積極参加を進め、参加者、ボランティアとして多く参加し、イベントボランティアは企画段階から参画しています。

(2) 現在、全国的に進められている中学校の部活動改革は各自治体も取り組んでいますが、多くの自治体で保護者への説明不足などもあり地域の合意形成も図れていない状況で進んでいます。当市でも部活動の地域移行の協議は行っていますが、未確定なことも多く、地域・保護者との合意形成が遅れています。その間でも、中学校は部活動時間が短くなったり、土日の練習なしなど中学生の環境は変化しています。クラブは種目部と話し合い、中学生の活動の場の確保、選択肢を増やす活動を実施しています。

先行的にクラブと中学校は部活動連携について具体的には次のことを進めています。

- 中学校部活動になくクラブで中体連登録を行っている活動: 剣道、陸上競技、新体操
- 中学校部活動と並行している活動: 柔道(地域練習ができないときは部活動で活動)
- 練習はクラブでの活動が中心だが、学校部活動としての活動: 卓球(試合出場に課題があるため)
- 市内の中学校から集まる活動: 軟式野球(当該校の部活動にも参加し、以外にクラブチームで活動)
- 小学校時代にやっていたスポーツの継続: 空手道、ダンス(クラブ内種目部のオープン化)

参加する中学生は練習時間を確保するなど、好意的に参加しています。

しかし、事務局は次のように考えています。地域移行が部活動改革であるのであれば、部活動は今後も公のスポーツ・文化活動とする必要性を感じています。行政が早く方針を示し、徹底的に協議して、中学生のための新たなルールづくりを考えなければよい活動は実現できないと思います。実現のためのキーワードは持続化、自走化です。



卓球練習(スポーツ少年団×中学生×一般)

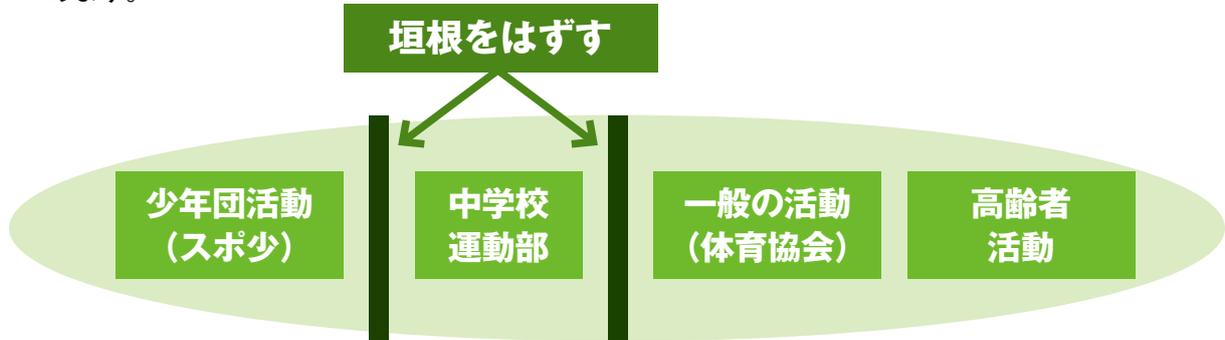


スポーツフェスタ(四方綱引き)

4

垣根をはずして自由に行き来できる クラブづくりをめざして

目標は、めざすクラブ像を実現し、理念を達成することです。そのために次のことをさらに進めます。



地域にあった各層・各段階の垣根を取り払い、途切れるスポーツシステムをやめ、自由に交流できる環境、一貫指導の実現などが可能になり、一人ひとりの思いに合う活動が実現できます。

中学生は、自分のやりたいことを自由に選べる選択肢を増やす活動環境をつくりたいと思います。部活動とクラブの連携が普通にある地域スポーツの仕組みを創造していきたいと考えています。

上記が実現できれば、理念である「生まれてから死ぬまでのスポーツとの関わり」が持てる地域になるかと思っています。また、中学生の活動の選択肢、スポーツ機会の提供、継続的な活動が確保できます。そうなることを信じて、これからも地域で活動していきます。

NPO法人ゆうスポーツクラブ 事務局長 菅岡克則

クラブプロフィール

設立年月日 平成13年4月1日（平成15年12月16日法人登記）

所在地 山口県岩国市由宇町南沖一丁目13番1号

運営 会員数：920名（令和6年9月現在）、予算規模35,446,100円（令和6年度）

- 特徴**
- 多世代会員がいる（4歳～80歳代）
 - 多種目の活動を実施している
 - スポーツ少年団、中学校運動部はクラブ会員として活動している
 - 地域との協働事業を進めている
 - 由宇地区の体育施設の指定管理を受託している など

連絡先 〒740-1425 住所：山口県岩国市由宇町南沖一丁目13番1号

TEL：0827-63-1400 FAX：0827-63-1401

HP：<http://yu-sc.jp>

E-mail：j.ysc@yu-sc.jp